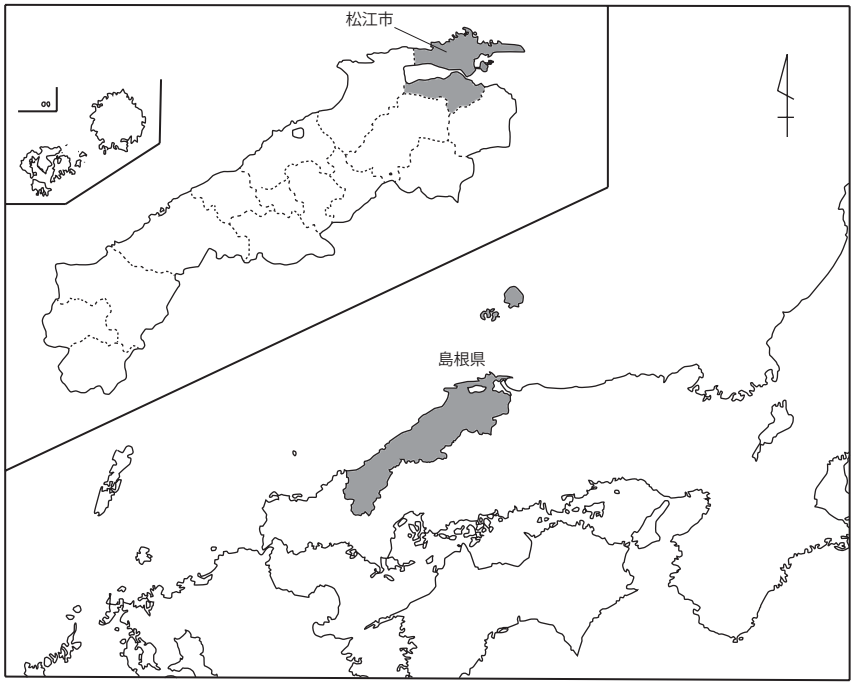
埋蔵文化財課年報〈23〉

平成 30 年度

2020 年 3 月

公益財団法人 松江市スポーツ・文化振興財団



松江市位置図

表紙写真：南外３号墳から島根半島をのぞむ

第１章　公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織

◇ **設　立**　昭和 51 年（1976 年）4 月 1 日　財団法人松江市教育文化振興事業団が設立される。

◇ **沿　革**　平成 25 年（2013 年）4 月 1 日

公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。

平成 28 年（2016 年）7 月 1 日

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に名称変更。

◇ **所在地**　松江市末次町 86 番地

◇ **目　的**　この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。

◇ **事　業**　（1）スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。

（2）すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。

（3）多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動推進に関する事業。

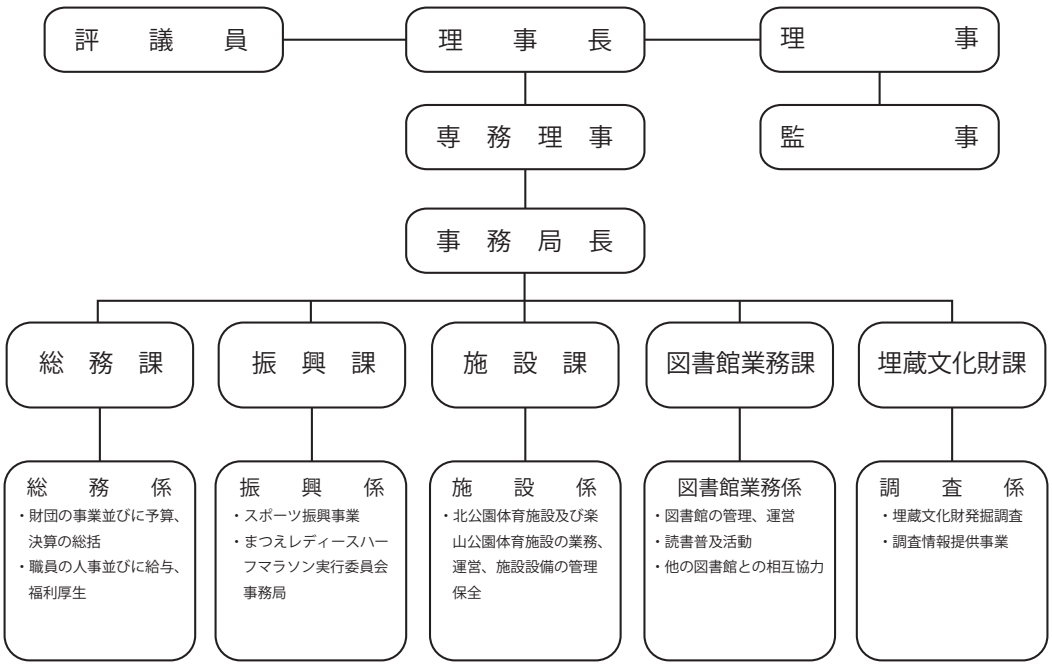
（4）埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。

（5）児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。

（6）教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。

（7）その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

◇ **組　織**　（平成 30 年 4 月 1 日現在）



◇　埋蔵文化財課

設　　立　　平成５年７月１日

所 在 地　　〒690-0401　島根県松江市島根町加賀 1263-1

Ｔ　Ｅ　Ｌ　　０８５２－８５－９２１０

Ｆ　Ａ　Ｘ　　０８５２－８５－３６１１

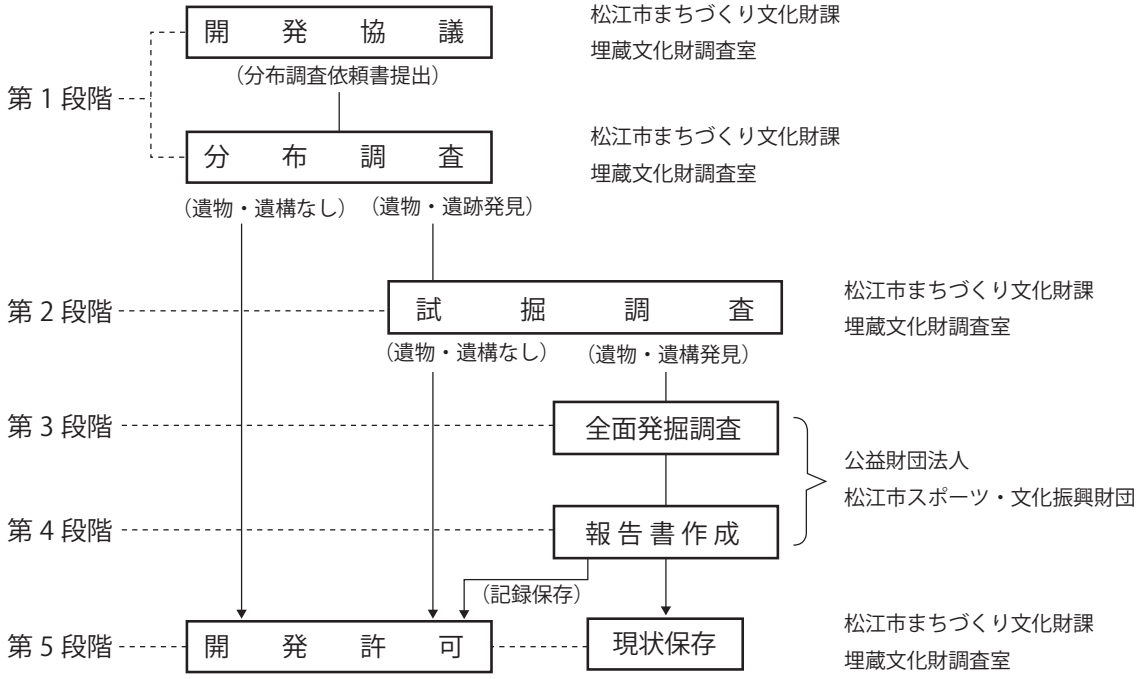
業　　務　　1) 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

2) 埋蔵文化財課の庶務経理 (予算及び決算を含む) に関すること。

◇　平成 30 年度　職員体制

理 事 長	星野芳伸
専務理事	安部　隆
事務局長	井原智延
埋蔵文化財課長	赤澤秀則
主　　任	江川幸子　小山泰生
嘱託職員（調査員）	廣濱貴子　徳永桃代
嘱託職員（調査補助員）	北島和子　宇津直樹　木村由希江　門脇祐介
嘱託職員（事務）	後藤哲男　曽田　健　江角由巳

◇　松江市埋蔵文化財業務フローチャート



第２章　平成 30 年度事業の概要

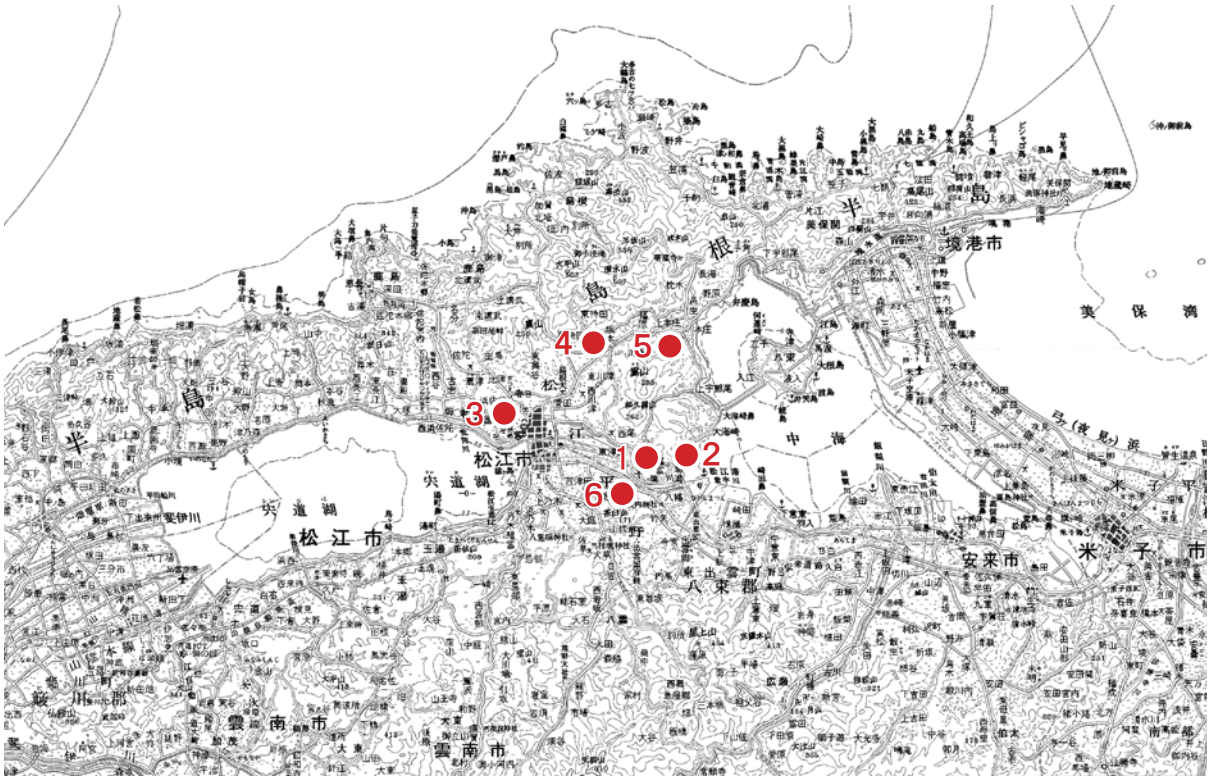
公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課では、平成 30 年度において 4 班体制で、6 遺跡の発掘調査と 4 冊の発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

１．発掘調査

（仮称）アークタウン黒田造成工事に伴う白岸古墳群発掘調査、L.L.C ういんぐ移設事業に伴う堤ノ上遺跡発掘調査、市道西尾大井線道路整備事業に伴う朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）発掘調査、新庄地区農地中間管理機構関連農地整備事業に伴うドロケ遺跡(1 区)発掘調査、大橋川朝酌矢田(移転先）個人住宅新築工事に伴う朝酌矢田遺跡発掘調査、（仮称）グリーンテラス東津田団地造成事業に伴う南外古墳群発掘調査（南外 3 号墳・4 号墳・5 号墳）の 6 遺跡の発掘調査を実施した。

２．報告書作成

平成 30 年度は、市道才軽尾線道路整備事業に伴う海崎古墳発掘調査、（仮称）アークタウン黒田造成工事に伴う白岸古墳群発掘調査、朝酌町個人住宅造成・新築工事に伴う朝酌橋ノ谷遺跡、一般県道八重垣神社竹矢線（大庭工区）社会資本整備総合交付金事業に伴う大庭北原遺跡・東淵寺古墳・大庭植松遺跡発掘調査の 4 冊の発掘調査報告書を刊行した。



１．朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）　２．朝酌矢田遺跡　３．白岸古墳群
４．堤ノ上遺跡　５．ドロケ遺跡（1 区）　６．南外 3・4 号墳

朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）

1．所　在　地　松江市朝酌町 998 番地 6

2．調査面積　150㎡

3．調査期間　平成 30 年 9 月 19 日～ 11 月 9 日

4．調査原因　市道西尾大井線道路整備事業

5．遺跡の種別　貯蔵穴・散布地

6．遺跡の年代　縄文時代・弥生時代・古代

7．調査の概要

調査地位置図

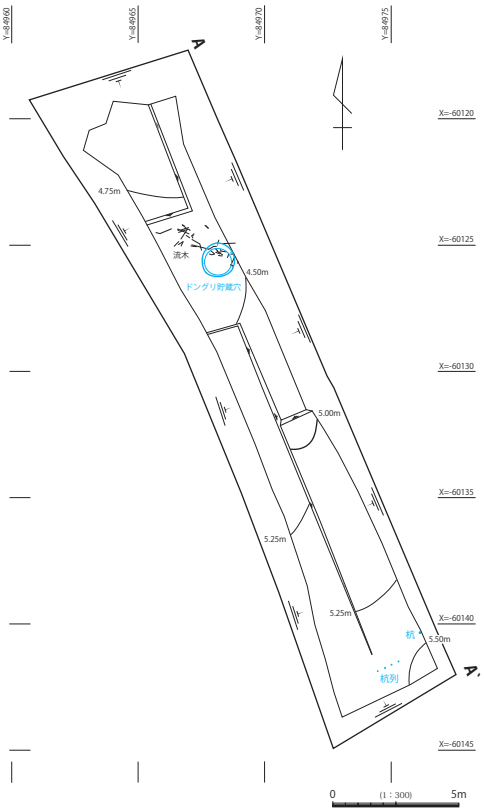
朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）は魚見塚遺跡で検出した古代官道推定地の北に隣接する場所にあり、当初は古代に関連する遺構が期待されたが、結果として大きく分けて 3 時期の遺物と遺構を検出した。すなわち、①西の丘陵部から転落した古代の土器や木製品、②地山を削り込んだ土石流に混じる弥生時代後期の土器、③地山面で検出した縄文時代の堅果類の貯蔵穴 1 基である。

縄文時代の堅果類の貯蔵穴は白色粘土の地山面で検出したもので、平面プランは円形を呈して直径 1.3m を測り、深さ 0.46 mが残存していた。貯蔵穴の底面には砂や広葉樹の葉が敷かれており、大量のドングリ類が出土したほか、クルミ・トチ・サンショウの実も少量出土した。ＡＭＳ法によれば縄文時代中期末～後期初頭頃の遺構であることが判明し、隣接する大井町の九日田遺跡で検出された 22 基の堅果類の貯蔵穴とほぼ同時期であることが分かった。

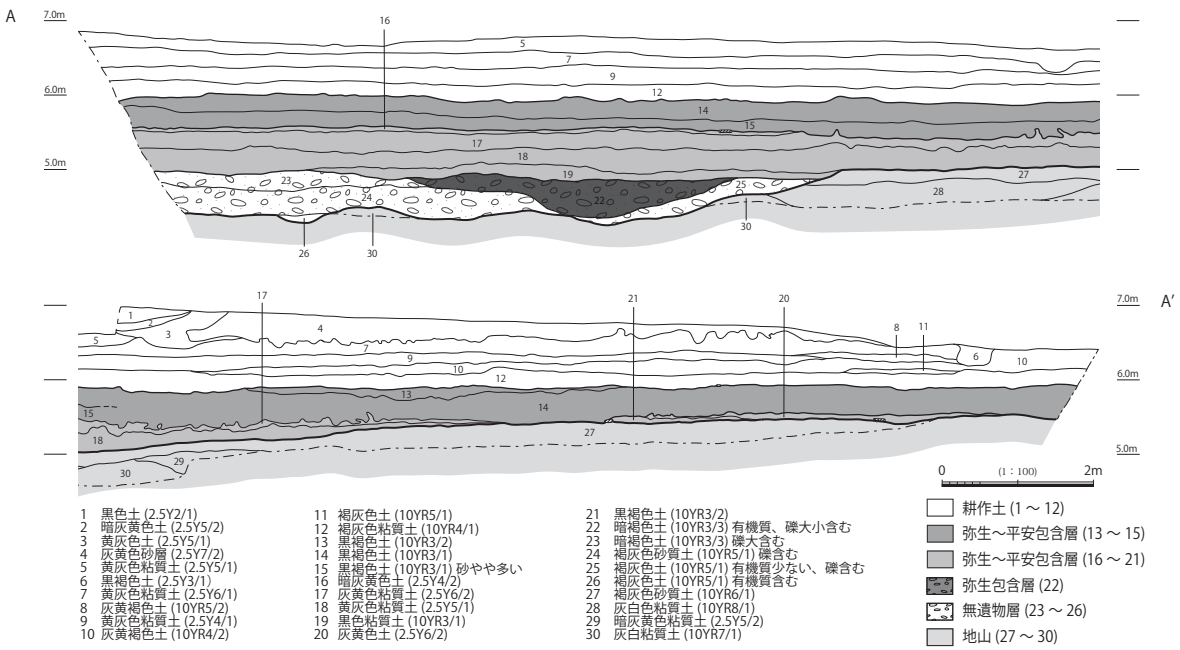
近年、当遺跡に近い大橋川縁辺ではシコノ谷遺跡や福富松ノ前遺跡などから多量の縄文土器が発見されており、縄文時代を通じて人々が生活していたことが解明されつつある。朝酌地域の縄文時代を語るうえで重要な遺構のひとつといえよう。

（江川幸子）

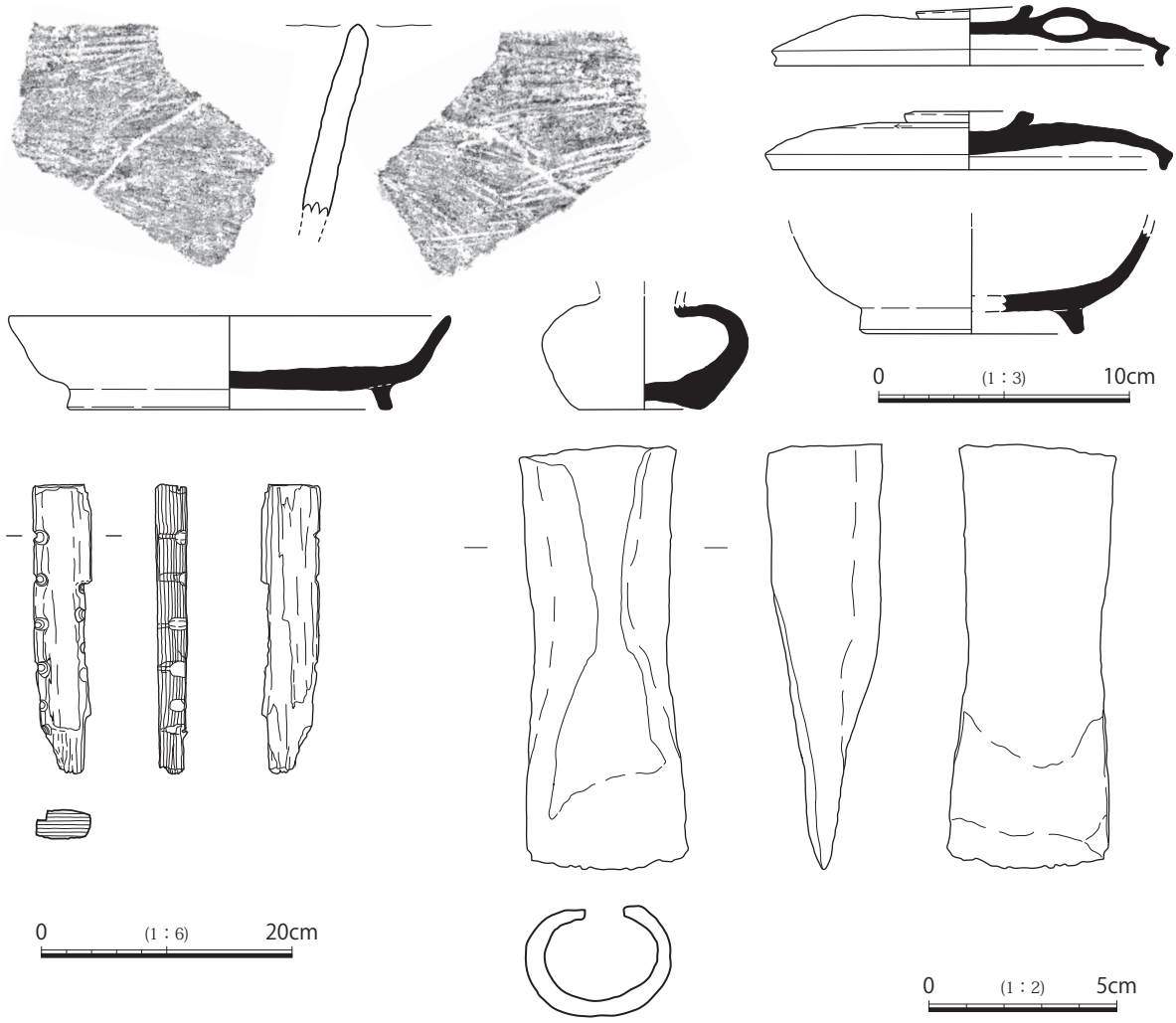
ドングリ類の貯蔵穴半截状況　（北から）



朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）遺構配置図



朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）東壁土層図



朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）出土遺物

※今後正式に報告書を刊行するため、内容が変わる場合があります。

白岸（しろぎし）古墳群

1．所　在　地　松江市黒田町字白岸 599 番地外

2．調 査 面 積　200㎡

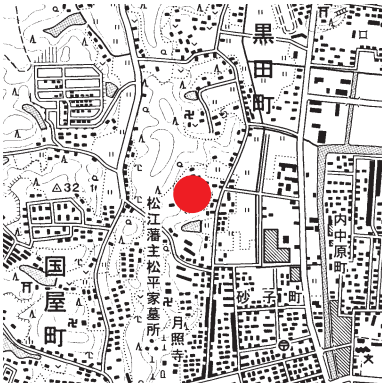
3．調 査 期 間　平成 30 年 4 月 12 日～ 6 月 20 日

4．調 査 原 因　（仮称）アークタウン黒田造成工事

5．遺跡の種別　古墳

6．遺跡の年代　古墳時代中期

7．調査の概要



調査地位置図

白岸古墳群は、松江市黒田町の南西端にあたる標高 16mを測る丘陵の尾根上に築造された 3 基の古墳である。調査で確認した 3 基の古墳は、南西から北東方向の丘陵の尾根上に 1 基ずつ縦列する形で配置されていた。いずれも墳丘の規模が 10m以下、高さが 1 m未満の小形古墳で、2 基の方墳と 1 基の円墳からなる群集墳であることが判明した。

古墳群の構成

1 号墳は、尾根上の南西側に位置する 9.80 × 7.30 mの方墳である。墳頂標高は 16.62 mを測り、白岸古墳群中最高所に位置する。墳丘は高さ 0.80 mで削り出した地山の上に盛土を施して築造している。墳丘西側は近世の段階に削平されていたために墳頂平坦面は原形を留めておらず、主体部は消失しているものと考えられた。

2 号墳は、尾根上の中央に位置する直径 8.20m の円墳である。墳頂標高は 16.36 mを測り、墳丘は高さ 0.68 mで削り出した地山の上に盛土を施して築造している。主体部は墳頂中央からやや西側で第 1 主体部を検出しているが、平面プランは明瞭ではなく、掘り込みも浅いことから、明確に主体部と判断できる根拠は得られていない。また、墳丘東側の墳裾では墳裾主体部とした第 2・3 主体部を検出している。この 2 つの墓壙は、形態が似ること・軸方位が揃うこと・床面から想定される掘り込み面から、ほぼ同一の時期に掘り込まれた墓壙と考えられ、墳裾に造られることから副次的な被葬者のものと推定される。

3 号墳は、尾根上の北東側に位置する 8.80 × 6.20 mの方墳である。墳頂標高は 16.27 mを測り、墳丘は高さ 0.70 mで削り出した地山の上に薄く盛土を施して築造している。主体部は墳頂平坦面中央から中心主体となる第 1 主体部とその北西側から第 2 主体部を検出した。古墳の主たる被葬者は墳頂平坦面中央に占地する第 1 主体部であり、第 2 主体部は第 1 主体部に比べて規模が小さく、墳頂中央からやや離れた位置に造られることから副次的な被葬者のものと推定される。

古墳群の年代観

今回の調査で出土した遺物の特徴から、古墳に伴うものと考えられる遺物には須恵器片が 7 点と金属製品が 1 点あり、そのうち埋葬施設から出土した遺物は 3 号墳の第 1 主体部から須恵器片が 1 点出土したのみである。そのため、時期比定の手がかりに乏しい状況にあるが、区画溝など墳丘の周辺から出土したものを墳丘からの流出品として捉えている。

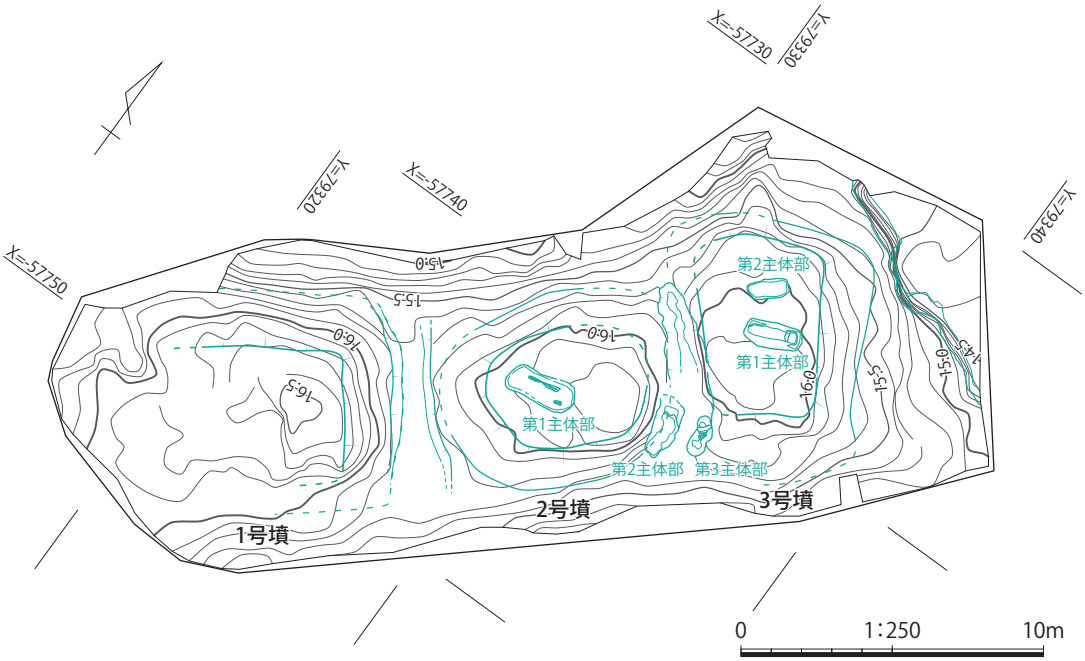
調査で出土した古墳に伴う遺物はすべて須恵器で占められており、墳丘間の区画溝内の覆土上面から甕片が出土している点が注視される。出土した甕片は、外面に平行あるいは格子状のタタキ目、内面に青海波文のタタキ目を施すもので、内面の当て具痕をスリ消すという特徴が見られる。

時期は、大谷編年出雲 1 期中段階（TK23・47 並行期）の範疇にあたる古墳時代中期（5 世紀後半～末）と考えられ、白岸古墳群の年代もこの時期に比定できる。

（小山泰生）

白岸古墳群全景　（東から）

写真奥から 1 号墳・2 号墳・3 号墳



白岸古墳群配置図

白岸古墳群遺構一覧表

名称	墳丘			埋葬施設				出土遺物	備考
	墳形	規模 (m)	墳頂標高 (m)	主体部	構造	規模 (m)	主軸		
1 号墳	方墳	9.80 × 7.30	16.62	消失か	—	—	—	—	墳丘西側は近世に削平されている
2 号墳	円墳	径 8.20	16.36	第 1 主体部	墓壙	2.35 × 0.92 × 0.13	E − 12° − N	—	主体部は尾根方向と斜交する
				第 2 主体部	墓壙	2.02 × 0.82 × 0.31	N − 12° − W	—	墳裾主体部
				第 3 主体部	墓壙	1.36 × 0.60 × 0.14	N − 12° − W	—	墳裾主体部
3 号墳	方墳	8.80 × 6.20	16.27	第 1 主体部	墓壙	1.95 × 0.86 × 0.25	E − 22° − N	—	主体部は墳丘にやや斜交する
				第 2 主体部	墓壙	1.34 × 0.64 × 0.08	E − 42° − N	須恵器	主体部は尾根方向に合わせている

堤ノ上遺跡（つつみのうえ）

1．所　在　地　松江市東持田町 236 番地外

2．調 査 面 積　3,800㎡

3．調 査 期 間　平成 30 年 9 月 25 日～ 31 年 3 月 20 日

4．調 査 原 因　福祉施設移設事業

5．遺跡の種別　集落跡・近世墓

6．遺跡の年代　弥生時代・古墳時代・古代・近世

7．調査の概要

調査地位置図

堤ノ上遺跡は、松江市街地北東側の松江市東持田町に所在する。調査地は、北山山系から南に向けて延びる支脈丘陵の西側にあたる緩斜面上に位置し、ここからさらに西側に隣接する低位部には近年まで笠無池が存在していた (現在は埋立地)。この池の北岸には、出雲国風土記の「島根郡」の中に「加佐奈子（かさなし）社」として記載が見られる「加佐奈子神社」が現存し、調査地から加佐奈子神社の本殿裏から北へ向かって分布する太田古墳群 (1 ～ 5 号墳) を擁する低丘陵を望むことがことができる。

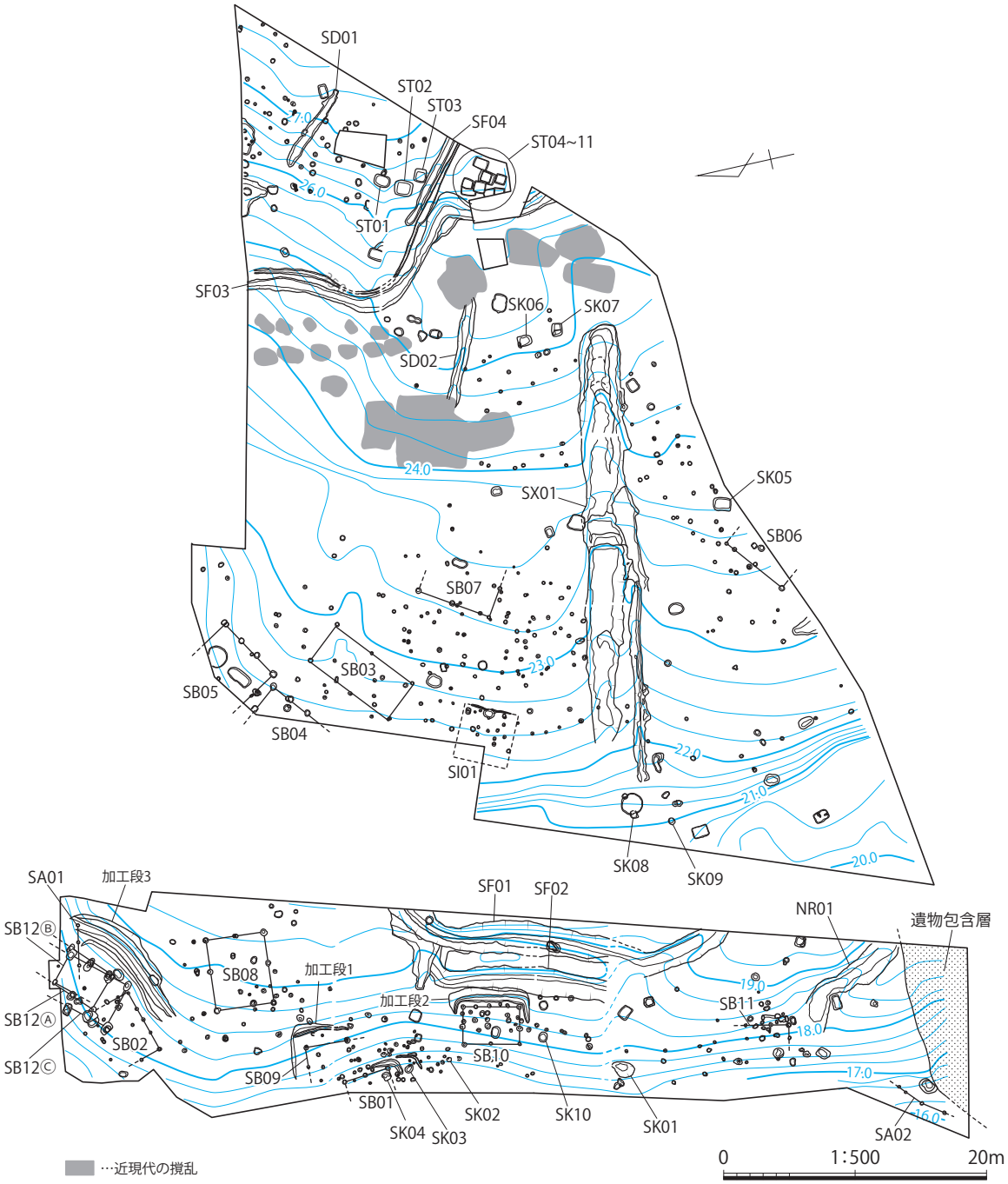
調査の結果、検出した遺構は弥生時代から近世までの各時期にわたるが、主体となる遺構は古墳時代・古代・近世の 3 時期のものであることが明らかとなった。弥生時代の遺構は希薄で、明確な居住関連施設は確認できなかったが、土坑 SK01 を検出した。当該期に属する遺物は、調査区西側の低位部で弥生時代中期～後期の土器が密に出土している。古墳時代の遺構は、竪穴建物跡 SI01・掘立柱建物跡 SB01 ～ 07・土坑 SK02 ～ 04 を検出した。SI01 は四本柱構造の竪穴建物を想定しており、建物東側に残存していた壁際溝のほぼ中央で壁際土坑を検出した。当該期の遺物の大半は土師器で占められ、建物跡を構成する柱穴から古墳時代中期の単純口縁の甕や小形丸底壺などが出土している。古代の遺構は、掘立柱建物跡 SB08 ～ 11 を検出した。このうち SB09 ～ 11 は加工段を伴う建物跡である。当該期に属する遺物は希薄で、調査区西側の建物跡付近や調査区南西角付近の遺物包含層から数点の須恵器が出土するに留まる。近世の遺構は、調査区東端で墓壙群 ST01 ～ 11 を検出したほか、掘立建物跡 SB12・道路 SF01 ～ 04・土坑 SK05 ～ 10 を検出した。当該期に属する遺物は、陶磁器・土師器皿・金属製品・銭貨などが出土している。

掘立柱建物跡 SB10 完掘状況　（北から）

近世墓群 ST04 ～ 11 完掘状況　（南東から）

特筆すべき遺構として、調査区東端で検出した近世墓群が挙げられる。ここでは墓壙を 11 基（ST01 ～ 11）検出し、平面プランは隅丸方形・長方形・正方形を呈する。墓壙内からは人骨のほか、陶磁器・土師器皿・銭貨・煙管・毛抜・漆器椀が出土し、ST09 では緡銭（さしぜに）が副葬されている状況を確認した。ST05・06・08・09・11 では墓壙下半～底面で棺痕跡を検出し、棺痕跡の検出規模から一辺 50 ～ 60㎝を測る直方体の木棺が埋納されていたものと考えている。今回の調査成果では、近世（18 世紀後半～ 19 世紀前半）には調査区東端周辺が墓域となっていたことが判明した。その後、墓域の縮小あるいは移動があったものと考えられ、現在は調査区の東側に隣接する場所に墓地が存在している。

（小山泰生）



堤ノ上遺跡遺構配置図

ド　ロ　ケ　遺　跡　（1区）

調査地位置図

1. **所　在　地**　松江市新庄町 806 番地外
2. **調 査 面 積**　852.4㎡
3. **調 査 期 間**　平成 30 年 11 月 27 日～ 31 年 3 月 26 日
4. **調 査 原 因**　圃場整備事業
5. **遺跡の種別**　散布地
6. **遺跡の年代**　古墳時代・古代・中世
7. **遺跡の概要**

ドロケ遺跡（1 区）は、嵩山を母体とする丘陵を擁し、その丘陵裾から中海に向かって東に広がる扇状地に設けられた水田に存在する。調査区南側には「新川」と呼ばれる川が流れている一方、久羅弥神社の谷筋の流れとの合流地点に位置する。

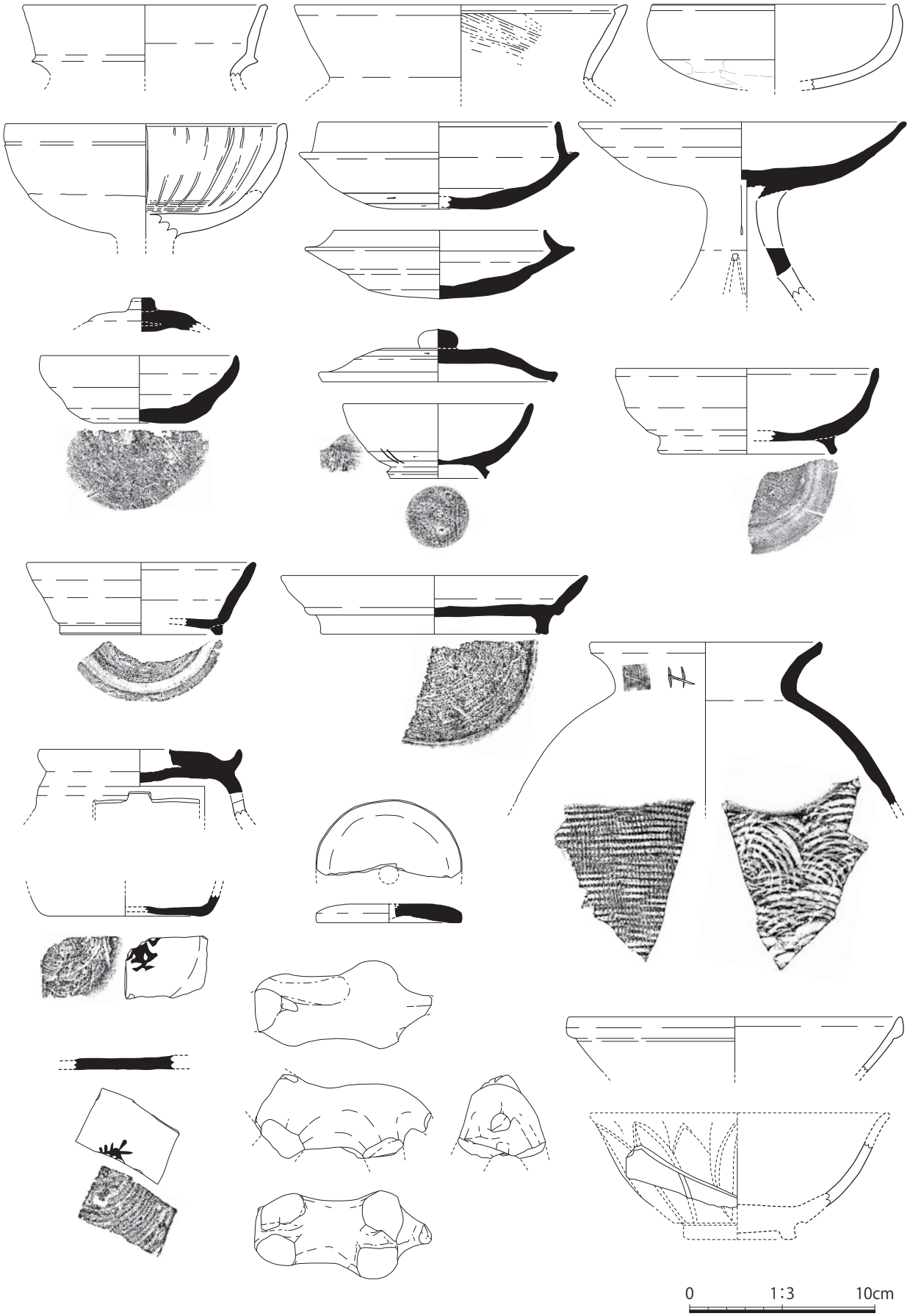
調査では、粘土層と洪水堆積と思われる礫層が確認できた。礫の堆積を主体とする自然流路を 3 本検出したが、これ以外の遺構は認められなかった。粘土層以下からは遺物は出土せず、これより上層の礫層から遺物が出土し、コンテナ約 130 箱もの大量の遺物が出土した。

古くは古墳時代前期の土師器甕片、古墳時代中期の土師器甕片・高坏片や須恵器坏身片などを少数確認しているが、遺物の中心は 7 世紀末から 8 世紀初頭の須恵器と土師器が大量に出土している。その後の時代の遺物は数量が減少するものの、白磁片や青磁片など中世前半までのものが確認できている。

これらの大量の遺物とともに窯体片や溶着した須恵器などがあることから、付近に窯跡の存在が推定される。また、土師器の甕・竈・土製支脚といった土製品も相当量出土していることから集落の存在も想定されよう。特徴的な遺物としては、漆付着の須恵器片・円面硯（焼損品）・土馬・勾玉が挙げられる。そのほかに、ヘラ記号が残る須恵器や墨書土器も 10 点程度出土している。また、内面平滑な須恵器蓋も一定量存在し、硯に転用されたことを示唆する。以上のように、今回の調査では付近に須恵器生産を行う大規模な集落の存在を想定することができる貴重な成果を得た。

（徳永桃代）

ドロケ遺跡（1 区）全景　（西から）



ドロケ遺跡（１区）出土遺物

※今後正式に報告書を刊行するため、内容が変わる場合があります。

南外（なんげ）3・4号墳

調査地位置図

1. 所在地　松江市東津田町字南外 2296-5・2296-56
2. 調査面積　925.7㎡
3. 調査期間　平成 30 年 12 月 3 日～ 31 年 5 月 30 日
4. 調査原因　（仮称）グリーンテラス東津田団地造成事業
5. 遺跡の種別　古墳
6. 遺跡の年代　古墳時代
7. 遺跡の概要

南外古墳群は 、松江市を東西に流れる大橋川の南岸東津田町の丘陵上に所在する。5 基の古墳が確認されており、1･5 号墳は約 20 mの前方後円墳、3 号墳は円墳、2･4 号墳は方墳で、径および一辺が 10 m余の小規模な古墳からなる。

1 号墳は、島根県が平成 12 年度に測量及びトレンチ調査を行い、2 号墳は、平成 17 年度に同じく島根県により本調査が行われている。平成 30 年度は 3・4 号墳の調査を行った。

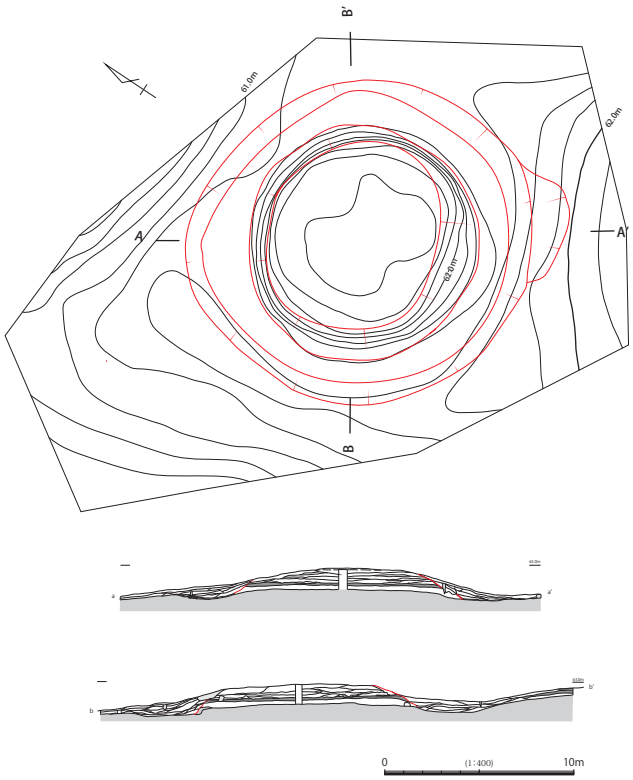
3 号墳は、径 13 ～ 14 mの円墳で、墳頂部標高は 62.6 mを測る。墳丘は旧表土上に水平に盛土して造られ、周溝が全周に巡っている。周溝に墳丘からの流入土が厚く堆積していたことから、墳丘上半は流失したと考えられ、主体部の検出はできなかった。土器は墳丘北側の裾部から多く出土し、周溝最下部でほぼ原位置を保つと思われる土師器の高坏が出土したことから、この辺りで祭祀が行われたとみられる。古墳の築造時期は、古墳時代中期末から 6 世紀初頭と考えられる。

4 号墳は、3 号墳から北に約 200 m下った斜面に築かれた方墳で、墳丘北西側は後世の削平により失なわれている。墳丘は一辺 13m、墳頂部標高は 35 mを測る。墳丘は旧表土を残して造られ、主体部は、墳丘の完成後、墳頂から墓壙を掘り込む墓壙ではなく、墳丘構築初期過程で埋葬を行う無墓壙主体部である。土饅頭状を呈する 1 次墳丘内で検出された墓壙は、後の墳丘構築のためか変形をきたしていたが、長さ 2.5m、幅 0.3m を測るものであった。棺の腐朽に伴い陥没しており不整形な形状となっていたが、底面はわずかに弧状をとどめており、刳り抜きの木棺であったと推測される。また、主体部は方墳の対角を向く斜交主体となっている。遺物は、墳丘から破砕した須恵器の甕片・刀子・折損した赤瑪瑙製勾玉が、北西側周溝からは須恵器の𤭯・高坏や土師器の高坏・甕などが出土している。周溝出土遺物の須恵器の𤭯や高坏他は出雲 2 期であり、築造時期も同時期と考えられる。

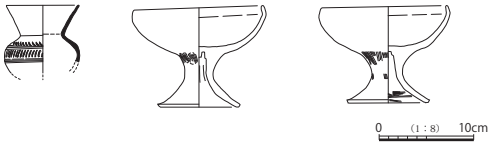
南外古墳群は小規模な古墳群で、5 基の古墳が 100 ～ 200 mの距離をとり散在的で、他の群集墳とは異なる。南外 2・3・4 号墳をみると、盛土下に旧表土を残す点は共通しているが、形態・墳丘の盛土工法・主体部に違いがみられる。この 3 基は、古墳時代中期末から 6 世紀前半代の古墳と考えられ、南外 5 号墳の成果、そして 1 号墳の様相、さらに今後予定されている櫨岡古墳群の成果から当該期の古墳の動向が明らかになると思われる。

（廣濱貴子）

南外３号墳全景（真上から）

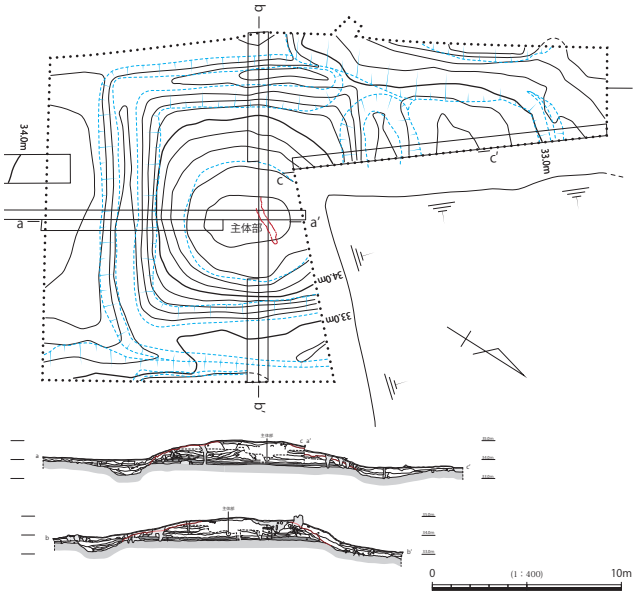


南外３号墳墳丘及び土層断面（S=1：400）

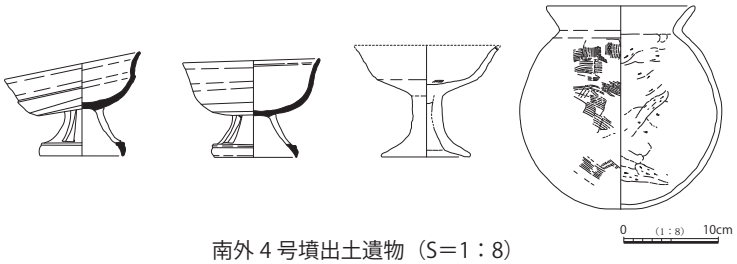


南外３号墳出土遺物（S=1：8）

南外４号墳全景（南東側上空から）



南外４号墳墳丘及び土層断面（S=1：400）



南外４号墳出土遺物（S=1：8）

※今後正式に報告書を刊行するため、内容が変わる場合があります。

第３章　平成 30 年度以前の調査

H26 年度以前の調査は www.matsue-sposhin.jp/maibun_cyousa.html を参照ください。

年度	遺　跡　名	所　在　地	遺　跡　の　概　要	報告書
H 27	上岡遺跡	岡本町	古代の集落跡を検出。覆土からは須恵器が多数出土。	2016 刊
H 27	黒田下屋敷遺跡	黒田町	縄文時代から近世にかけての遺物包含層を検出。	2015 刊
H 27	森屋敷遺跡	宍道町	弥生時代から近世にかけての遺物包含層を検出。朝鮮半島系の土器が出土。	2016 刊
H 27	大庭北原遺跡	大庭町	弥生・古墳時代の竪穴建物跡をそれぞれ１棟づつ検出。	2018 刊
H 27	広垣遺跡	西長江町	自然流路とそれに伴う祭祀と思われる遺構・遺物を検出。	2017 刊
H 27	外屋敷遺跡	大庭町	８世紀代の区画溝および道路状遺構や中近世の掘立柱建物跡を検出。	2016 刊
H 27	松江城下町遺跡	母衣町 43-2 外	江戸時代の４面の遺構面を確認。長屋門に伴う石垣を検出。	2015 刊
H 27	松江城下町遺跡	奥谷町 322	堀尾期では「牧九右衛門」の屋敷地と伝わる場所を調査。江戸時代の３面の遺構面を確認。	2015 刊
H 27	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を 16 ヵ所で実施。石組水路・石列・素掘りの大溝を検出。	2018 刊
H 28	魚見塚遺跡	朝酌町	古代の道路を検出した。直線的な敷設を指向し、『出雲国風土記』記載の「枉北道」の可能性が高い。	2018 刊
H 28	光泉寺遺跡	山代町	古代から近世の柱穴等を検出。中世の掘立柱建物は、隣接する山代沖田遺跡のものと連続する遺構と考えられる。	2017 刊
H 28	松江城下町遺跡	母衣町 115	江戸時代の屋敷地内を調査。洪水堆積の様相を呈する砂礫層を検出した。	2018 刊
H 28	松江城下町遺跡	南田町 108-1 外	城下町形成段階に掘削された幅 4.2m の素掘りの大溝を検出。埋戻しの際には旧地表面のラミナ層のみを使用していた。	2018 刊
H 28	朝酌菖蒲谷遺跡	朝酌町	古代道（枉北道）に接続する可能性のある道路遺構と集落跡を検出。	2018 刊
H 28	柏木遺跡	西持田町	弥生時代中期後半から中世後半の遺物包含層を調査。	2017 刊
H 28	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を 16 ヵ所で実施。屋敷境の溝、石列等を検出。南田町では幅 8m を超える屋敷境溝を確認。	2018 刊
H 29	松江城下町遺跡	殿町 198-7	城下町形成段階に掘削された推定幅 4.0m の素掘りの大溝を検出。18 世紀代の遺構面から上水井戸を検出。	2018 刊
H 29	柏木遺跡	西持田町	前年度継続。弥生時代中期後半から中世後半の遺物包含層を調査。	2018 刊
H 29	礫岩古墳	野原町	かつて古墳が存在したと考えられるが、のちに山城築城のため、削平される。山城の竪堀や加工段を検出。	2018 刊
H 29	朝酌橋ノ谷遺跡	朝酌町	弥生後期から古墳前期の竪穴建物、古代の掘立柱建物などを検出。	2018 刊
H 29	朝酌菖蒲谷遺跡	朝酌町	前年度継続。古墳時代の土器棺墓を検出。その他に奈良時代の集落跡や道路遺構を検出。	2018 刊
H 29	海崎古墳群	美保関町	古墳時代中期から後期の古墳群。竪穴系横口式石室と横穴式石室を調査。	2018 刊
H 29	福浦法田峠２号墳	美保関町	報告書編集事業。小規模な横穴式石室墳の調査。２次墳丘、古墳築造前の祭祀を確認。	2018 刊
H 30	白岸古墳群	黒田町	古墳時代中期の小規模古墳群。主体部は素掘りの土壙。	2018 刊
H 30	朝酌矢田遺跡	朝酌町	近世の建物跡の一部を検出。縄文時代・古代の遺物を少量確認。	2019 刊
H 30	堤ノ上遺跡	東持田町	弥生時代から近世の複合遺跡。古墳時代中期と古代の掘立柱建物を中心とする集落。近世墓群も検出。	2019 刊
H 30	朝酌菖蒲谷遺跡（低地部）	朝酌町	斜面部から転落した古代を中心とする遺物包含層を調査。下層から縄文時代の貯蔵穴を検出。	未刊
H 30	ドロケ遺跡（1 区）	新庄町	古代を中心とする旧河道を検出。大量の遺物が出土。円面硯の焼損品などが出土。上流に窯跡の存在を推定。	未刊
H 30	南外古墳群（3・4・5 号墳）	東津田町	3 号墳：円墳。4 号墳：方墳。5 号墳：帆立貝型前方後円墳。古式の横穴式石室基底部のみ残存。	未刊

埋蔵文化財課年報 <23>

2020 年 3 月発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印刷

千鳥印刷株式会社

島根県松江市春日町 344-2